

# ダニエル・カールの

# 聞きたい! 消防団

第15回

## 沖縄県那覇市消防団

はいさい。今回は、東京から約1,600キロメートル離れた沖縄県的那覇市をお訪ねしました。

台風銀座ともいわれる沖縄の中心地である那覇市消防団の活躍や防災対策などについてお尋ねしたいと思います。

それでは、那覇市消防団の嘉数勝<sup>かかずまさる</sup>団長、喜屋武晃彦<sup>きやんあきひこ</sup>副団長、比嘉功<sup>ひがいさお</sup>副団長、そして那覇市消防局の照屋雅浩<sup>てるやまさひろ</sup>警防課長の皆さんからお話を伺いましょう。



左から、照屋<sup>てるや</sup>警防課長、喜屋武<sup>きやん</sup>副団長、比嘉<sup>ひが</sup>副団長、ダニエル・カール、嘉数<sup>かかず</sup>団長  
(那覇市消防局で撮影)

## 那覇市の概要について

**ダニエル** まず、那覇市の概要についてご紹介をお願いします。

**照屋課長** もともと沖縄というのは琉球国という一つの国として栄えており、那覇市は、琉球国の王府、商都としてアジア諸国との交流を軸に発展してきた長い歴史があります。空港や大きな港湾を抱え、首里城などの文化的・歴史的な建造物も多数あり、国際通りなどは年中多くの人で賑わっています。また、平成25年4月からは、全国42番目の中核市として一歩を踏み出したところです。



首里城

**ダニエル** 人口はどのくらいですか。

**照屋課長** 32万人前後です。沖縄の他の地域では人口が減っているところもあるのですが、那覇市ではちょっとずつ増えています。

**嘉数団長** 定年退職をして第二の人生を送るにあたり、のんびりしたいと移住してくる方々もたくさんいらっしゃいます。

**ダニエル** 沖縄は暖かくて住みやすそうですね。12月でも20℃を超えているんですね。

**嘉数団長** 今日(12月9日)も24～25℃くらいあります。

**ダニエル** うちの女房は山形の人でね、老後はどうすんべって話を最近しているんですよ。山形に帰ろうよと言ったら、寒いから嫌

だって言われて(笑)。世界遺産も多いし、ここに住めばすぐにそんな魅力的な場所に行けるのは、楽しそうですね。沖縄はどうかって、ぜひすすめてみます(笑)。

## 那覇市消防団の概要についてなど

**ダニエル** では、続いて那覇市消防団の概要について教えてください。

**嘉数団長** 私たちの消防団は、現在76名の団員でがんばっています。サラリーマンがほとんどなので、どうしても会社に気をつかうので、活動しづらい部分もあります。また、沖縄の場合、本土と違って、消防団という組織に対する認識が薄いんですよ。「消防団って何?」というくらい、知られていないですね。

**ダニエル** そうなんですか。

**嘉数団長** 消防団を知っている会社であれば応援してくれるかも知れませんが、知らないと、「何それ?それをやる暇があったら仕事をやったら?」と言いかねない会社も多いと思います。厳しい現実ですね。

**ダニエル** 特に那覇市は大きな街なので、消防団の存在感が薄いのかも知れないですね。

**嘉数団長** 本土もそうだと思いますが、都会のほうが設備はちゃんと整っているものですから、田舎と比べて、消防団が災害現場などで活躍する場面が少ないのかもしれないですね。

**ダニエル** なるほどね。那覇市消防団はいくつに分かれているのですか。

**嘉数団長** 8つの分団に分かれています。

**ダニエル** 1分団あたり、10名弱ですね。

**比嘉副団長** やはり本土と比べると、桁が違いますよね。それでも田舎や離島は職員よりは団員が多くて、装備もそれぞれに充実しているかと思います。

**ダニエル** 私は歴史が好きなものでして、那覇市消防団の歴史について興味があります。昔から消防団のような存在はあったのですか。

**比嘉副団長** 1887年(明治20年)に、この那覇のエリアには消防組織がないということで、本土の方を中心とした有志が石門通り会を拠点とする私設の消防組織を立ち上げたのがはじまりとされています。その後1912年(大正元年)に、石門通り消防団が那覇警察署の管轄下におかれ、私設から官設消防になりました。1949年には現行の組織を立ち上げて結成式を行い、今の嘉数団長が6代目です。

**照屋課長** 詳細が不明なところもあります。ご存じのように、さきの戦争で市域の約90%が焼失していて、歴史に関する資料が乏しいというのが沖縄県全体としてありますので。

**ダニエル** やはり那覇が沖縄の中心だったということで、戦場としても激しい場所だったわけですね。

**照屋課長** いまだに不発弾(爆弾が爆発しない状態で土に埋まっているもの)が年間10件程度見つかっています。

**嘉数団長** 消防団も警戒や避難誘導などを行っています。何百キロ級の大きな不発弾が発見されたときには、その場所から半径数百メートル以内は避難場所ということを自衛隊が決めます。一軒一軒を回って、「すみませんが、危険区域なので避難してくれませんか」と案内をするために人手が必要になりますので、そういうときに消防団員は呼ばれますね。

**ダニエル** 例えば、不発弾が発見されてから避難命令が出て、一キロ以内の方は避難してくださいと言われたとしても、場所によっては何時間もかかるんでしょうね。急にみんなが避難するのは難しいですね。

**照屋課長** 発見されて、まず自衛隊には不発弾処理をする部隊があるんですけど、そこと市の防災室が調整し、それから地域の住民にすべての説明を終えてから、避難を行うようになっていきます。

**比嘉副団長** 交通規制して、そのエリアにいる住民の方に移動してもらわないといけないですからね。

**喜屋武副団長** 建物を作ろうと作業をしていると、そこから出てくることもあります。

**照屋課長** 向こう約70年とはかからないと全部を処理することはできないと言われています。

**ダニエル** それもまた本土と違って沖縄独特の歴史だから、消防署や消防団員の皆さんも心配しなければならないところなんですね。



## 過去の印象的な災害等とその際の対応

**ダニエル** 今までの災害の中で、消防団が活躍された印象的な災害はありますか。

**喜屋武副団長** 最近では、幸い大災害には遭遇していませんが、過去の災害をみると、10棟以上を全焼する火災や、不発弾等に伴う爆発、大規模な地盤沈下などの事故に見舞われ、その際に消防職団員が協力して消防活動を行ったようです。

**嘉数団長** 一番記憶に新しいのは約1年前だったかと思いますが、繁多川、首里坂下方面

で火災が発生しまして、その火災現場が俗にいうゴミ屋敷だったんです。それで長時間くすぶり続けたというのがあり、マンパワーがほしいということで消防団が呼ばれて、長時間活動したことがありました。そのときに、私たちを使ってくれてありがたいな、役に立っているんだなと実感しましたね。

**ダニエル** 人手不足のときに助けにきてくれたということで、(消防署も)ありがたかったですよね。やはり地元の方との付き合いが一番多いのが消防団員の皆さんですよ。声をかけても信用してもらいやすいというか、地元の方だと信頼感がありますね。親父も消防士で、30年間同じ部署で働いていたので、わりと地域で顔が知られていたんです。だから、親父が言えばみんなも動いてくれました。ただその関係を築くまでは数十年かかりますよね。



### 防災対策と訓練についてなど

**ダニエル** 災害で一番心配しなければならないのは台風ですか。

**喜屋武副団長** 毎年5月から10月にかけて、大型で強い台風が猛威を奮います。沖縄を襲う台風は進行が遅く、2、3日暴風域状態が続くこともあります。ですから、私たち消防団も台風の

大きさや強さ、進路に応じて警戒態勢をとり、現場に出動します。

**比嘉副団長** 沖縄は台風銀座と呼ばれていることもあって、大きな災害は台風が多いのですが、阪神淡路大震災、東日本大震災を踏まえると、たまたま今まで大きい地震がないというだけで、沖縄も地震がないわけではないんですよ。大地震が起きたときには、孤立した県なので応援がくるにも時間がかかります。船がくるにしても大きい津波がきたら危険ですから、すぐには応援にもこられないと思います。ヘリコプターにしてもキャバが限られてくると思うので、その間、自分たちでどれだけ持ちこたえるかということですよ。正直、意識し始めたのは最近で、それまでは台風だけに備えていればいいやという気持ちもあったのですが、地震も他人事ではないというか、私たち消防団としても、備えておかなければならないと思います。

**ダニエル** 私は東北での生活が長いので、ボランティアで何度も被災地に足を運んでいますが、やはり津波に関連する看板があちこちに増えてきていますね。例えばここは海拔何メートルというのは、今まであまり意識していなかったけれども、最近はどこへ行っても出てきますね。

**比嘉副団長** 沖縄でも施設や国道沿いに表示されていて、よく目につきますね。

**ダニエル** 運転しているときにときどき見えて、ここは海拔6メートルしかないのかと思って、「うわっ、もし今地震がきたらどうしよう、高い山とかないかな」と無意識で探したりするんですよ。沖縄県の皆さんの津波に対する意識は高いですか。

**嘉数団長** まだ徐々にという感じですね。

**照屋課長** 震災以降、意識が高くなっては

いるのですが、まだまだですね。やはり亜熱帯地方の、おっとりした性格がわざわいしてるのかもしれませんがね。

**ダニエル** 津波に対する意識は徐々にという印象ですが、やはり、こちらでは台風の方が心配ですよ。でも、(沖縄は)川が短いから氾濫する心配はあまりないですか。

**比嘉副団長** 雨による影響は、やはり本土に比べると少ないと思います。大きい山もないです。すぐに海に流れていくという感じですね。

**ダニエル** 鉄砲水のようなものもないですか。

**嘉数団長** 平成21年8月に、上流地域の突発的豪雨により発生した鉄砲水で、4名の尊い人命が奪われる水難事故もありました。

**ダニエル** 消防団の皆さんは、それらの災害に対応するため、どのような訓練をされていますか。

**嘉数団長** 避難誘導を一番中心に行っています。日頃から安全な場所を頭に入れておいて、ここで発生したらどこへ避難させようということは常に考えています。そのために自主防災組織との連携訓練を行ったり、また、道路に横たわった倒木や危険物の除去のためにエンジンカッターやチェーンソーなどの取り扱い訓練やロープ結索訓練などを行って台風に備えています。

**ダニエル** 訓練はどのくらいの頻度で行われるのですか。

**嘉数団長** 月に平均4～6回くらいです。



自主防災組織との連携訓練の様子



エンジンカッターの取り扱い訓練等の様子

**ダニエル** そのとき、一番困るのはどのようなことでしょうか。

**比嘉副団長** 消防局の北側の広場を借りてやっているんですが、施設内で訓練するので場所が狭いのと、職員の方が訓練していることもあるので、そういうときはお互いエリアを分けて使うこともあります。それと、このあたりは住宅街なので、音に気がつかれます。チェーンソーを使う場合の甲高いエンジン音やポンプ車を回したときの水を吸い上げる音がけっこう出るので、その際にクレームがきたりしますね。職員の方もそうだと思うんですが、マンションから離れて反対側に行ったりなど、やるときはやはり騒音問題を気にします。特に私たちの場合、活動は仕事が終わってからになるので、基本は夜8時から10時までを目途に訓練をしていますので、ちょうど家でくつろいでいるときなのでうるさいなあと感じるみたいですね。

**ダニエル** 小さいお子さんがいらっしゃるご家庭は特にそうですね。でも、訓練は大事なんですけれどもね。とても現実的で分かりやすい話をありがとうございます。訓練をするときなどは、分団同士でお互いにコミュニケーションをしっかりとっていますか。

**比嘉副団長** 本土と比べて組織自体の規模が小さいもので、だいたいみんなと一緒にやっ

ているんですよ。76名の団員のうち、毎回集まるのが40名くらいなので、8つの分団ごとにやるのではなくて、その中でまた3つのグループに分けてそれぞれの訓練をやったり、合同の訓練をやったりなどしています。先日も那覇マラソンという約31年の歴史があるイベントの警備をやったんですが、その前には無線運用の復習的な訓練や、傷病者や急病人の搬送訓練、応急手当の復習をするなど、お祭りやその時期に合わせた訓練をしています。皆で一緒にやっているので、人数が多くてコミュニケーションを取るのが大変ということはないですね。



那覇市マラソンの様子

**ダニエル** 人数が限られている分、一緒にやったほうが合理的ですね。

**比嘉副団長** そうですね、団の規模が大きいと同じ分団の中でも顔が分からないこともあるのかも知れませんが、那覇市消防団はこじんまりとしているので。

**嘉数団長** こちらでは顔も名前もすべて、みんなお互いに知っています。沖縄の言葉で「ゆいまーる」というものがあります。お互い助け合うという意味です。それぞれが本業を持っている消防団員ですので、自動車の整備士とか、看護師とか、いろんな職業の人がいて、誰がどんな仕事をしているか把握しているものですから、(消防団の活動以外でも)いろいろな面でお

互いに助け合っています。

**喜屋武副団長** 消防署の方とも仲が良いんですよ。毎年、合同で運動会もしています。今年は2軍を出したので綱引きで負けましたが(笑)、来年は1軍を出してリベンジをしたいですね。

### 最後に～那覇市消防団のPRなど～

**ダニエル** 那覇市消防団について、PRしたいことなどがあればお聞かせください。

**嘉数団長** 団員不足なので、沖縄県内の企業がどう理解してくれるかというのが一番の悩みの種でして、那覇市の広報誌に消防団の活動をしている写真をとときどき載せるなど、団員募集をしています。徐々にではありますが、効果はでてきています。

**ダニエル** 年に何回かはイベントに参加などもされているのですか？

**比嘉副団長** お祭りの警備などに参加しています。そういうときに消防団の存在をアピールできる場なのかなと思って、いろいろしていますね。将来の消防団員確保のため、小中学校の運動会に出向いて行って、私たちの操法の様子を見てもらったこともあります。そのときはちょうど県の操法大会の前だったので、自分達としても場慣れする、人の視線に慣れるという意味も含めて、地域へのアピールにもなるし、自分たちの訓練にもなるということでやりましたね。



操法大会での様子

**照屋課長** 先月の11月22日(日)には「第1回消防団フェア」というイベントを、国際通りのてんぶす前広場で行いました。そこは今、日曜日は歩行者天国をやっているのので、たくさんの人でにぎわいました。よしもと沖縄花月の芸人さんも協力してくれたので、フェアは大いに盛り上がりました。

**ダニエル** ええー! そうなんだ。それは、いいPRになりましたね。その後、(入団の) 希望者は出ましたか。



消防団フェアの様子

**嘉数団長** 入りたいという問い合わせがありました。

**ダニエル** 現在の約80人から、希望としては何人くらいまで増やしたいですか。

**嘉数団長** とりあえずは条例定員が120名なので、そこまでは入団することができるんです。

**ダニエル** あと40名くらいですね。いろんな工夫をして、どれが一番効果があるのか試してみないと分からないと思いますけれども、これからぜひがんばって、120名を目指してください。ちなみに、女性の方もいらっしゃいますか?

**比嘉副団長** 現在9名います。

**嘉数団長** 今いる消防団員の大半が知人や友人などの紹介で入団しています。実際に入ってみていいなと思ったら、一緒に入らないかと、友達を呼んでくるんです。

**ダニエル** 口コミのような感じですね。人のつながりは大事なことですよね。最後に一言、お願いいたします。

**嘉数団長** (団員数は) 現在76名ではありますが、少数精鋭ながらも和気あいあいと精力的に活動を行っています。さまざまな仕事を持つ者が、家族のような雰囲気で消防団活動に従事することはとても重要であり、現場活動でも落ち着いて個々の力を発揮できると考えています。今後も雰囲気を大切に強い消防団を目指します。

## 対談を終えて

12月だというのに25℃近くあり、そんな気候を象徴するかのように温かく迎えてくれた那覇市消防団の皆さん。皆さん、気さくな方たちばかりで、楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。

皆さんの温かい気持ちが地域の方々に伝わって、消防団に対する理解が深まっていくといいですね。那覇市消防団の皆さんのいっそうのご活躍をお祈りいたします。(ダニエル・カール)